

「ごみゼロ社会」は 読解検定長文 小5 夏 2 番

生産者の面生活
者の面も持っている

「ごみゼロ社会」は企 業が行動を改めさえすれば実 現するかのように受け取られるかもしれませ
ん。しかし、そう単 純ではありません。

私 たち一人ひとりはこの社会の中でいろいろな顔をもっており、どの顔もひとりの人間の真の姿
です。政治的な顔は、国民・市民としての立場から主 権者として政治にかかわることです。生産者
としての顔は、職 業・仕事をとおして経 済活動にかかわることです。生活者としての顔は、もの
やサービスを消費しながら、教育・文化や趣味・リクリエーションにかかわり成長していくことで
す。こうしたいろいろな側面が 私 たちのなかに重なりあっています。人によって、また年 齢によっ
て、ある部分が大きくなったり小さくなったりしますが、こうした多面的な視点から対象をトータル
に見ていくことが必要です。

暖 房や冷 房がききすぎている乗物やオフィス、歯磨き・洗 顔・調理のときの湯水の流しっぱなし
や、テレビ・電気のつけっぱなし、メーカーからのエコロジーマッセージに気づかず、値段と見栄え
と便利さで商品を選ぶ買い物、公共輸送機関が利用できるのに車を使うこと……。私 たちにとって
身につまされることばかりです。いままであたりまえのこと、よいと思っていたこと、まわりの人も
同じようにしていることを、自分の意見で変えていくわけですから、なぜそうしようとするのかにつ
いての知識が必要ですが、日本人とか〇〇会社の社員としてではなく、地球人としてのセンスが必要
です。

ここで、ケチとぜいたくについて考えてみましょう。ケチとかぜいたくとかいうことは、ものが少
ないとき、ものがあっても買うお金がない時代、逆 にいえば、だれもがものを持ち、お金を使うこと
を渴 望しているときの言葉です。ある人がどんどんものを買ひ、お金を使うのをみてうらやむときに
「ぜいたく」といいます。しかし、地球はいま、もの余り・金余りの人間によって痛めつけられてい
るのです。オイルショックのとき、もの（資源）が枯渇するといわれましたが、そうかんたんには
なくなることがわかってきました。地球にはまだものがいっぱいあります。お金も先進国には十
分あります。とくに日本は余っています。

地球、とくに先進国ではいま、ものが余っています。つまり、ケチとぜいたくという言葉の社会的
基盤がなくなってきています。そういうときに、この言葉のもつ概 念にしばられている人は
時代遅れということになります。いま地球に不足しているのは、ものではなく、ものの入れもの、
資源を使いごみにしたときのごみの捨て場（地球環 境）です。先進国、とくに日本に不足している
のは、お金ではなくて地球を救うための知識とセンスです。

ものをどんどんつくり、使い捨てにする一方で、なんでもお金で解 決しようとする日本人は、自ら

しょう
の^{しょう}ことを日本語で「ぜいたく」と称しても、それは本人の勝手ですが、じつは地球語に翻^{ほんやく}訳するとそれは「ケチ」ということになってきます。ものを大切に、できるだけごみをつくらないようにする人、そうなるように智恵^{ちえ}を出す人、汗^{あせ}を流す人が、地球語では「ぜいたく」な人なのです。

かんきょう
地球環^{かんきょう}境を大切に守りながら子孫に伝えていくことに異存^{いそん}のある人はいないでしょう。問題は自分自身でそれを理解^{りかい}し行動していくことです。あなたがいま、この本を読んでいるその瞬間^{しゅんかん}にも、たえずまわりに捨てつづけている「ごみ」をとおして、生活を見つめ直していくことが大切です。そのときのキーワードは、地球語の「ぜいたく」なのです。

はったあきみち
(八太 昭 道「ごみから地球を考える」)

何十年先の
環境被害は出
ついてかいていな
い X